

**7F病棟 業務改善2025**

# 処置カート導入による 業務の効率化と安全性の改善

7F病棟

若村 摩耶 横山 みゆき 西分 恵美子

## 背景



・7F病棟は慢性期患者が多く、簡易な処置(褥瘡・創傷処置、ガーゼ交換、抜糸、ストマ交換、膀胱留置カテーテル交換等)が多いが、**専用の物品や人手を必要とする処置**(CVやPICCカテーテル挿入、ポート増設、胸腔・腹腔ドレナージ等)**はほとんど実施されないため**  
**処置カートがなかった。**

## 問題



- ・急に処置が必要となった時に、**病棟に物品がなく、物品集めに時間**を要し、異なる物品を準備して**いたり、準備不足**があった。
- ・他病棟から借りて**物品補充トラブル**等起こっていた。
- ・そもそも**処置が実施されることが少ないため、経験不足で必要な物品がわからない**スタッフが多い。

# 業務改善の目的



**問題**は…

- ①準備に時間要し  
処置が遅延するおそれ
- ②必要物品・処置方法  
の知識不足から安全に  
処置を行えないリスク

処置カート  
の導入

**目的**…

- ①処置準備時間の短縮に  
より**業務の効率化**を図る
- ②物品の場所を表記し  
**物品管理**を行う
- ③物品準備、処置介助を  
誰でも行えるように  
**処置手順**を作成する

# 取り組み内容

処置カートがないため、使用していないワゴンや物品を整理するためのトレイ、かごをかき集めて物品を収納して試用

→ カンファレンスでスタッフから意見を聴取

## ◆良い意見

「処置物品がまとまっているのは、緊急時に助かる」

「ワゴンの上段を作業スペースとして滅菌トレイ等を広げられて良い」

## ◆改善が必要な意見

「ワゴンが使いづらい」「見栄えが悪い。かつこ悪い」

「ここにない物品はどこにあるのか不明」

「だれが物品管理をするのか。」

◇その他…「処置カートを必要とする処置がほとんどなくあたったことがない」



※改善前の画像がないため  
イメージ画像

# 試用段階での問題とその解決策①

## ◆ワゴンが使いづらい(見栄えが悪い)



院内で使用していないワゴンを探し、  
NICUの旧小児用救急カートを再利用

☆救急カートは院内統一のため本来は処置カートとして使うべきではない...が、

区別するため表示を工夫

(黄色いテープで縁取り、「処置カート」と目立つ  
よう表示、目立たない場所に配置)



# 試用段階での問題とその解決策②

## ◆物品管理をどうするか



物品管理チェック表を作成

月1回+使用毎にチェックを行う。

## ◆物品の場所の管理



処置の手順書の使用物品箇所にカートにない

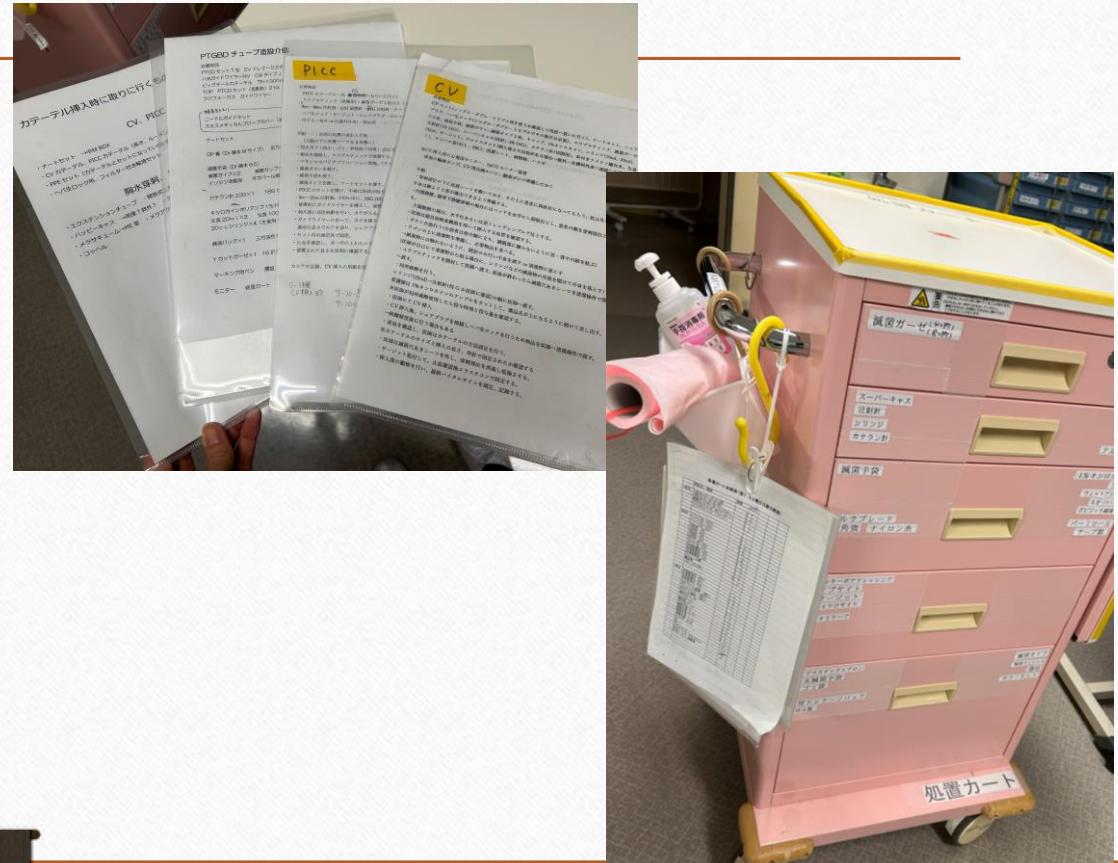
物品の場所を明記し事前に取りに行けるようにする

# 試用段階での問題とその解決策③

◆処置方法がわからない



処置の手順書を作成しファイリング  
誰でも見れるように処置カートに  
ぶら下げた



# 処置カート導入による効果



## ◆カンファレンスでスタッフから意見聴取

- 物品の所在が明確になり探す時間が短縮した(物品表示がわかりやすい)
- 使用されていないカートを再利用したことでSDGSにもつながった。
- カート 자체が使いやすく、作業台としての利用もできる
- 物品チェックリストや処置手順のおかげで物品管理、処置介助がスムーズに行える

# 考察・今後の課題



- **考察**

- 処置カート導入により業務の標準化と効率化が図られたと考えられる
- 処置手順を整備したことで安全で円滑な処置が可能となる

- **今後の課題**

- 予想していた処置の頻度が乏しく使用回数が少ないため物品内容の再検討が必要
- 物品点検体制・処置カート運用ルールを確立し、全体へ周知していく



# まとめ

- 処置カート導入により、業務の効率化・安全性の向上が図られた
- 試用段階での課題をふまえ、運用改善の必要性が明確となつた
- 今後の課題として、継続するための運用ルールを明確化する必要がある
- 今後も現場の声を反映し、質の高い看護につなげる視点をふまえて、業務の効率化、業務改善に取り組んでいきたい